

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問調査)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	24人	算数	24人	理科	24人
第5学年	国語	27人	算数	27人	理科	27人

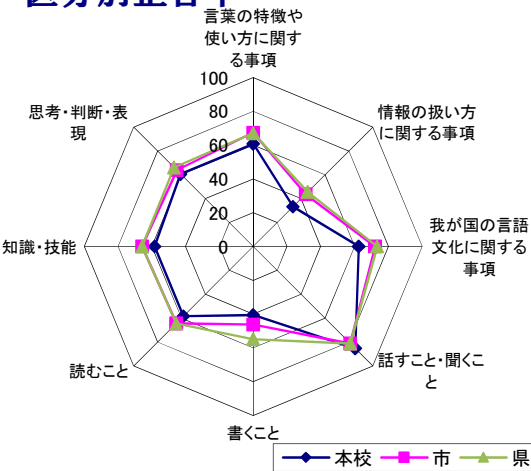
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	60.7	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	33.3	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	62.5	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	85.4	81.2	81.2
	書くこと	40.6	46.2	54.9
	読むこと	58.3	64.3	64.5
観点	知識・技能	58.3	65.7	65.7
	思考・判断・表現	60.7	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

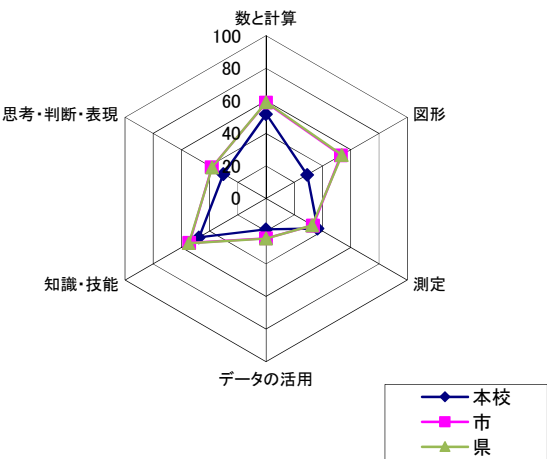
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○「遊び」「洋服」など普段からよく使う言葉については、漢字の読み書きがよく身に付いている。 ●「都合」のように普段あまり使わない言葉の漢字については、正しく読めていない。 ●「曲がる」は間違いが多く、漢字のつくりを理解できていないと考えられる。	・漢字の読み書きは、朝の学習や宿題などで繰り返し練習するほかに、日常生活の中で習った漢字を使う取組が成果として表れていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・難しい言葉も授業の中で意識的に使う。 ・間違えて書いている漢字は確実に直させ、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●「うすい黄色」の「うすい」の意味を正しく選ぶことができていない。「度合いが強くない」という意味を理解できなかったと考えられる。	・引き続き国語辞典を活用する機会を設ける。 ・国語辞典を活用するときは、例文の中から文脈に合った意味を選ぶことができるように指導する。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●漢字の「へん」や「つくり」を理解できていない。	・引き続き、新出漢字の学習や朝の学習などで「へん」や「つくり」について触れる機会を設け、定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より高い。 ○参加者の発言の内容に着目して、司会者の発言として適するものを選ぶ問題が、正答率91.7%とよくできている。話の内容を理解した上で考える力が身に付いている。	・朝の1分間スピーチの継続的实施や、授業の中で話合いの場を多く設けていることが成果として表れていると考えられる。引き続き、話合いの場を積極的に設け、話し方や聞き方を指導する。
書くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ●2段落構成にすること、書き出しを一まず空けること、2段落目に理由を書くこと等、条件に合わせた書き方をすることができていない。	・引き続き、学習や行事の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多くとる。 ・引き続き、朝の学習の時間に共通の課題を提示し、課題に対する自分の考えや理由を書いたり、段落等の条件に合わせて書いたりする作文の時間を設ける。
読むこと	平均正答率は市の平均より低い。 ●問題の趣旨に合わない回答が多い。話の内容を理解せずに問題に答えているものと考えられる。	・学年に応じた音読の取り組み方を工夫し、目で文章を追ったり、短時間に集中して読んだりできるようにする。 ・引き続き、読書に親しむ態度を育てる。読書の幅を広げ、物語だけでなくいろいろな分野の本を読めるようにする。 ・説明文では、段落のまとまりを理解し、その関係性を考える活動を十分に行うようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	51.9	58.9	59.2
	図形	29.2	53.0	53.7
	測定	36.5	33.1	32.6
	データの活用	18.8	24.4	24.6
観点	知識・技能	47.6	54.3	54.7
	思考・判断・表現	30.2	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

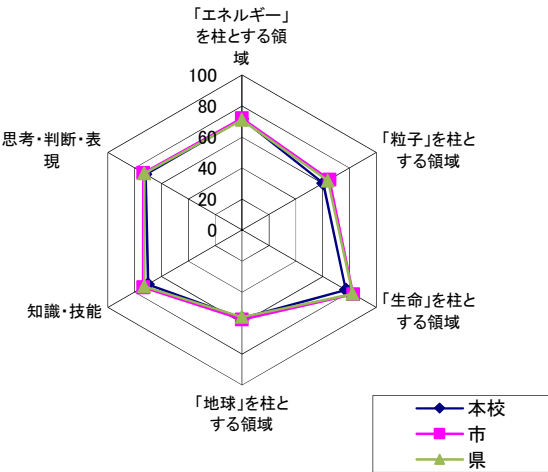
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均より低い。 ○2けた÷1けた=1けた(余りなし)の計算はよくできている。授業や朝の学習、家庭学習において、繰り返し計算練習に取り組んできた成果であると考えられる。 ●大きな数の表し方の理解に課題が見られる。	・今後も、繰り返し計算練習に取り組ませ、計算の基礎基本の定着を図る。整数の桁数が増えた乗法除法の計算や高学年でつまづきやすい分数の計算についても、繰り返し計算練習に取り組ませることで、正確な計算ができるように指導していく。 ・大きな数については、低学年から、数の構成と位取りのしくみを理解することができるよう指導していく。特に、4年生の指導では、3年生の万の位の復習を取り入れながら理解を図れるようにする。
図形	平均正答率は市の平均より低い。 ●二等辺三角形の性質についての正答率が低く、理解が不十分である。 ●円の性質や正三角形の理解が不十分であり、それらを利用した作図について、課題が見られる。	・図形については、低学年から、図の構成要素や性質の理解が図れるよう、丁寧に指導していく。また、新しい図形を学習した際には、図形同士の関係を考える活動を取り入れていく。 ・与えられた図形を作図する活動にとどまることなく、図形の性質を用いた模様づくりや具体物を用いた活動を行うことで、図形の感覚を磨けるよう支援していく。
測定	平均正答率は市の平均より高い。 ○はかりの目盛りを読みとり、重さを答えることが比較的よくできている。はかりを使って、身の回りのものの重さを予想したり量ったりする活動を大切にできた成果であると考えられる。 ●地図から道のりを読み取り、2つの道のりの差を求めることに課題が見られる。	・今後も、重さや量、長さを測定する活動を大切に身につけていく。また、定規や巻尺、分度器やはかりなどの道具を使用する際には、1目盛りの大きさに着目して測定するように指導していく。 ・問題場面を捉える力を育てる指導を重視していく。問題場面の中から必要な数値を取り出したり、立式したりする活動を丁寧に扱っていくとともに、児童が苦手とする単位換算については、2年生の長さの学習から意識して指導していく。
データの活用	平均正答率は市の平均より低い。 ●目盛りの付け方が異なる複数のグラフについて、数のくらべ方を説明する設問の正答率が低く、棒グラフについての理解が不十分である。 ●棒グラフの特徴と利点についての理解が不十分であり、身の回りの事象について活用する力は身に付いていない。	・グラフの最小目盛りの大きさをよめるよう学習させる。長さの学習や2とび、5とびなどの数直線の学習を振り返らせるなどして丁寧に指導していく。 ・実生活から棒グラフを作成し、棒グラフ(複数の棒グラフ)に表すよさを考えることができる場面を設定する。4学年の折れ線グラフについても、その特徴や利点を理解させたり、複数の折れ線グラフを比較したりする学習を大切に扱っていく。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	71.7	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	60.4	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	77.3	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	56.9	57.7	56.2
観点	知識・技能	70.1	73.8	72.8
	思考・判断・表現	71.9	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○電気を通すものについて理解しているかどうかをみる設問がよくできている。 ●日光を集めたときの明るさとあたたかさについて理解しているかどうかをみる設問の正答率が低く、理解が不十分である。	・電気を通すもの通さないものや、磁石につくものつかないもの、日光を集めたときの明るさとあたたかさについて、基本的な知識の定着は見られるので、一人一人が実験器具を扱った活動をさらに徹底するとともに、実験や観察で分かった結果を正しい理科の用語を使ってまとめ、言語化することを大切にしていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ●同じ体積でもものの種類によって重さがちがうことについて表と関連付けて考えることができるかどうかをみる設問の正答率が低く、体積の意味や質量について確実には身に付いていない。	・「体積」という言葉を使って解答できていない児童が多いため、授業の中で、理科の用語を使ってまとめ、言語化することを大切にしていくとともに、本時で身に付ける言葉をキーワードとして示しながら自分の言葉で説明できるようにする。 ・スマイルネクストドリルなどを用いて、理科に関する基礎・基本の知識の定着を図るようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○昆虫とダンゴムシの体のつくりの違いをとらえることができるかどうかをみる設問がよくできている。 ●植物のめばえや昆虫の体のつくりについて理解しているかどうかをみる設問の正答率が低く、理解が不十分である。	・観察する際の見るべき視点を示しながら、身近にいる昆虫の生態や昆虫のからだのつくりについて再度注目させることで、知識の定着を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○方位磁針の使い方を身に付けているかどうかをみる設問がよくできている。 ●太陽が動く方位を理解しているかどうかをみる設問の正答率が低く、理解が不十分である。	・実験内容と生活場面を関連させるような課題を設定し、実際に実験を行い、知識の定着を図るとともに理解を深められるようにする。 ・映像資料や実験、観察を通して、太陽の動き方と影の向きや動き方を比較することで、太陽の動き方の知識を整理して捉えられるようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、自分のためになっている」の質問に対し、全員が肯定的回答をしている。また、「次の教科の学習は、将来のために大切だと思うか」の質問に対しても、全ての教科について肯定的回答の割合が高く、「はい」と答えた児童の割合は、県の平均を上回っている。これらのことから、学習は将来に大切だという意識は高く、前向きに取り組みたいという気持ちをもつ児童が多いことが分かった。今後も、児童の学習意欲を高めて学習に取り組めるように指導するとともに、生活の中でどのように活用できるかについても触れていきながら、達成感を味わうことのできるよう指導をしていく。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の質問に対し、肯定的回答をしている児童の割合が、県の平均を10ポイント上回っていた。また、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の質問に対し、肯定的回答をしている児童の割合は、県の平均を7ポイント上回っていた。学習について意欲的に取り組んでいることがわかる。今後も課題提示の仕方を工夫するなど、授業改善に努めたい。

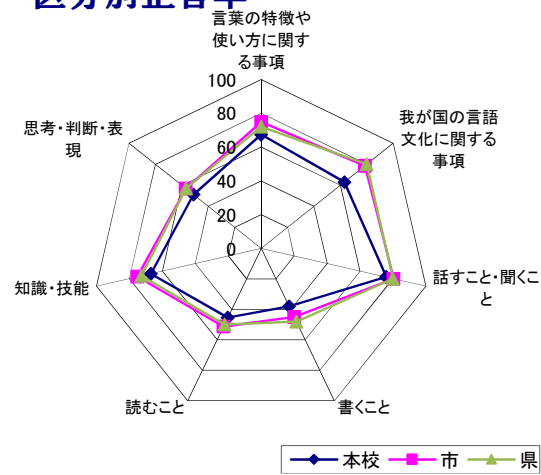
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の質問に対し、むずかしいと答えた児童の割合が、県の平均を上回っている。授業の中で、自分の考えを書く時間を設けるとともに、決められた時間の中で学習や行事の振り返りを書くなど、書く機会を増やしていく。

●「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、けい帯式のゲーム、けい帯電話やスマートフォンを使ったゲームもふくむ)をするか」の質問に対して、「1時間以上」と回答した割合が77.7%であり、市の平均を12.4ポイント上回っている。そのうち29.6%は4時間以上ゲームを行っていた。長時間、ゲームに時間を費やす児童がいると考えられる。保健体育の学習等で長時間のゲーム・テレビが体に及ぼす影響について指導するとともに、帰宅後の時間の使い方について、家庭への啓発を行っていきたい。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.4	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	63.0	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	75.9	80.4	80.0
	書くこと	38.0	45.1	48.0
	読むこと	45.4	51.3	50.0
観点	知識・技能	67.0	75.2	72.8
	思考・判断・表現	51.2	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

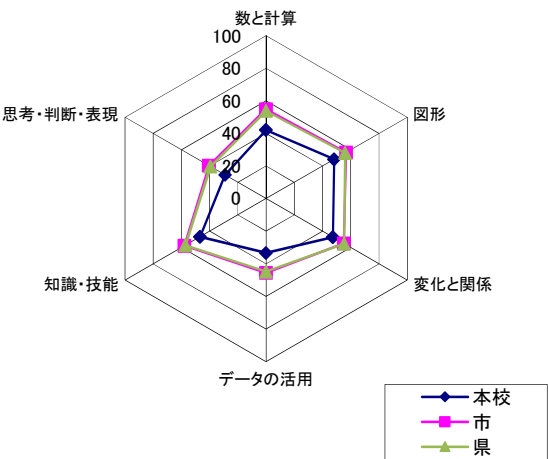
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ○普段よく使う漢字の読みはよく身に付いているが、普段使わない言葉の読みは正答率が低い。 ●漢字の書きでは、「兵隊」の「兵」は書けるが「隊」のように画数の多い漢字は正答率が低い。	・漢字の読み書きは、朝の学習や宿題などで繰り返し練習するほかに、日常生活の中で習った漢字を使う取組が成果として表れていると考えられる。引き続き取り組んでいく。 ・間違えた漢字については、間違いなおしを確実にに行い、定着を図る。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●慣用句の意味を理解して、自分の表現の中に生かすことができていない。	・引き続き、朝の学習や自主学習等で慣用句に触れる機会を増やす。ことばタイムで慣用句を扱う機会を増やす。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○話し合いにおいて、話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることは比較的よくできている。 ●話し合いにおいて、意見の共通点に着目して考えをまとめるという司会者の役割が身に付いていない。	・引き続き、話し合いの場を積極的に設け、話し方や聞き方を指導する。 ・課題に合った答え方が身に付くよう、他の人に分かるように理由を説明したり、他の人の考えに対して自分はどう思うかを話したりする活動の場を設ける。 ・話し合い活動の中で、司会の役割を経験させる機会を多く作る。
書くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ●2段落構成で、それぞれの段落に読み取ったことや自分の考えを書くなどの条件に沿って書く力が身に付いていない。	・学習や行事の振り返りで、時間や行数を制限したり、課題を与えたりしながら自分の思いや考えを書く機会を多く設ける。 ・朝の学習の時間に共通の課題を提示し、課題に対する自分の考えや理由を書く作文の時間を設ける。
読むこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○物語文では、登場人物の性格を説明した文の読み取りが比較的できている。 ●説明文では、文章全体を読み取り、内容を把握することができおらず、文章の内容をまとめた文の空欄に適する語を書き抜く力が身に付いていない。	・物語文では、場面ごとのまとまりを理解させ、人物の心情や情景を追うことで、物語全体の構成を捉えられるようにする。 ・引き続き、読書に親しむ態度を育てる。読書の幅を広げ、物語だけでなくいろいろな分野の本を読めるようにする。 ・説明文では、段落のまとまりを理解し、その関係性を考える活動を十分に行うようにしていく。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	42.1	54.9	53.7
	図形	48.2	56.6	56.1
	変化と関係	47.2	55.1	55.2
	データの活用	33.3	45.5	44.8
観点	知識・技能	46.8	57.8	57.2
	思考・判断・表現	29.1	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

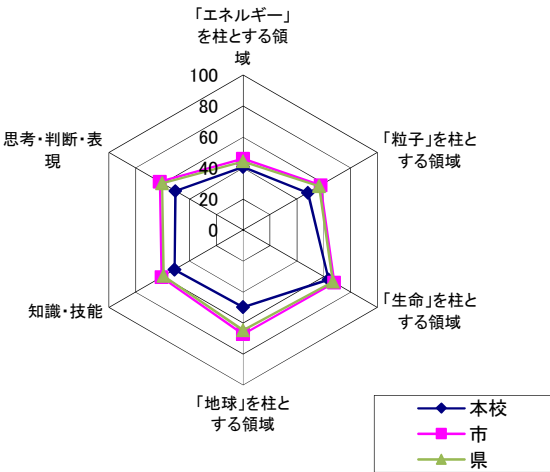
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均より低い。 ○数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表すことについてはよくできている。授業の中で数直線を利用して分数を読み取ったり、分数を数直線上に表したりする活動を丁寧に行ってきた成果であると考えられる。 ●小数のしくみの理解については、課題が見られる。	・今後も数のしくみについては、整数、分数、小数を可視化したり、それぞれを比較しながら大きさを実感できるよう指導していく。 ・小数については、初めて学習する3年生だけでなく、学年が上がってからも繰り返し復習を取り入れながら指導していく。小数の大きさについては、位取り表を用いて大きさを確認しながら計算問題に取り組めるようにしていく。
図形	平均正答率は市の平均より低い。 ○180度より大きい角の大きさを求めることについては、比較的よくできている。 ●面積の求め方について、示された求め方をもとに、正しい式を選ぶことについては、課題が見られる。	・面積の学習については、日常生活の場面と結び付けながら考えられるように問題を工夫したり、考えたことを図だけでなく、式や言葉を使ってまとめる活動を取り入れたりする。また、友達が描いた図について発表したり、友達の発表を言葉で補ったりする機会を意図的に設けることで、図と式や説明の結び付きについて理解を図れるように支援していく。
変化と関係	平均正答率は市の平均より低い。 ○表を読み取り、伴って変わる2つの数量の関係を読み取ることについては比較的よくできている。 ●割合を使って比べ方を説明することについては、課題が見られる。	・伴って変わる2つの数量に関する問題では、様々な問題場面を取り上げ、数の変化を表にまとめていくことを通して、2つの数の変わり方に気付くことができるように指導をしていく。 ・割合の学習では、数直線を活用し、比較量と基準量の数量の関係を正しく捉えさせるように指導を行う。そのためにも、日頃から数直線を描くことに慣れさせ、文章題から比較量と基準量を読み取れるように指導していく。
データの活用	平均正答率は市の平均より低い。 ○折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから読み取ることについては、比較的よくできている。 ●グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明することについては、課題が見られる。	・折れ線グラフの読み取りでは、算数以外の教科でもグラフや表などの資料から情報を読み取る活動を取り入れ、グラフや表を活用する力を身に付けさせる。また、日常生活の場面と結び付けながら考えられるように問題を工夫したり、考えたことを図だけでなく、式や言葉を使ってまとめる活動を取り入れたりする。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	40.7	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	48.2	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	63.7	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	49.8	67.2	64.6
観点	知識・技能	51.1	60.8	59.2
	思考・判断・表現	50.4	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○並列つなぎの名称を答える設問が比較的よくできている。 ●簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える設問は正答率が低く、簡易検流計の使い方が身に付いていない。	・実験器具の正しい使い方を覚えていない児童が多いため、器具を使って終わりではなくノートにまとめたり、実際に使う際に確認を行ったりして定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○水をあたためたときの結果を選ぶ設問が比較的よくできている。 ●あわの正体と考えた理由を答える設問は正答率が低く、理解が不十分である。	・記述ができていない児童が多いため、授業の中で予想や考察など文章を書く機会を多く設け、キーワードを示しながら自分の言葉で書くことができるようにする。 ・授業で行った実験の結果を知識として定着させるとともに、得た知識を活用して考える場面を大切に扱っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○ヒョウタンののびを正しく表したグラフを選ぶ設問が比較的よくできている。 ●腕をのばしたときの筋肉のようすを選ぶ設問は正答率が低く、筋肉の動きについての理解が不十分である。	・重いものを持つと筋肉が固くなることを想起させ、筋肉が縮むことで固くなるということを、日常的な体験と関連付けて捉えられるようにする。また、曲がるときと、伸ばすときを対比させることで、内側と外側の筋肉が同時に異なる動きをしていくことを意識させるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○星の色にはちがいがああることを答える設問がよくできている。 ●蒸発の名称を答える設問は正答率が低く、言葉の理解が不十分である。	・スマイルネクストドリルなどを用いて、理科に関する基礎・基本の知識の定着を図れるようにしていく。 ・「蒸発」という言葉を使って解答できていない児童が多いため、授業の中で、理科の用語を使ってまとめ、言語化することを大切にしていくとともに、キーワードを示しながら自分の言葉で説明できるようにする。

宇都宮市立田原西小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「人と話すことは楽しい」の質問に対し、肯定的回答をした児童は96.7%と割合が高かった。人とコミュニケーションをとりながら生活できている児童が多いことが分かる。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」「学校のきまりを守っている」の質問に対し、肯定的回答をしている児童の割合はそれぞれ93.3%、96.6%と高く、いずれも県の平均を上回った。児童自身が話し合ってきたきまりを作り、そのきまりを意識してよりよい学校生活を送ろうとしていることが分かる。

●「グループなどでの話し合いに自分から参加している」の質問に対し、肯定的回答をしている児童の割合は60%であり、県の平均を17.2%下回った。学校課題「自分の考えを表現し、学び合う児童」の育成に向けて、話し合いの前に自分の考えをもたせ、話し合い活動に自信をもって参加できるようにしたい。

●「家で、学校の授業の復習をしている」の質問に対し、肯定的回答をしている児童の割合は43.3%であり、県の平均を4.5%下回った。授業の復習が行える課題を宿題として出し、それを丁寧に行うように指導したい。また、自主学習の進め方を定期的に確認したい。

宇都宮市立田原西小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自分の考えを表現し、学び合う児童を育成する。 ・年間を通した家庭学習の推進	・授業の導入で、児童が「やってみたい」「知りたい」と思えるよう、教材や提示の仕方を工夫している。 ・年度始めに家庭学習メニューを配付し、自主学習ノートの秀作を掲示したり、家庭学習強化週間を年4回実施したりして、家庭への啓発を図っている。	・「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」の肯定的割合が市や県よりも高い。 ・「家で自分で計画を立てて勉強している。」の肯定的割合が県の平均より低いが、「学校の宿題は自分のためになっている。」の肯定的割合は4年生は100%、5年生は93%と高く、家庭学習の大切さは実感できている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・4年生、5年生ともに、どの教科においても、記述式の問題の正答率が県の平均を下回っている。また、無回答率が県より高く、自分の考えを文章で表現することが苦手の児童が多く見られる。	・全教科において、感想や振り返りだけでなく、分かったことや自分の考え等を記述する場を意図的に設け、思いを言語化できるようにする	・授業の中で、自分の考えを文章で記述する時間を十分に取し、友達と考えを交流することで考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・振り返りやまとめを書くときに、キーワードを示したり、必要な学習用語や文字数などの条件を整えて書いたりする場を設ける。